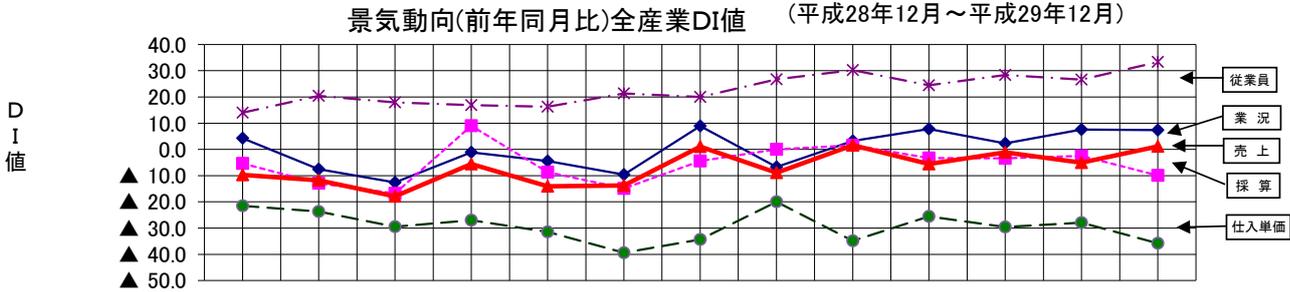


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 12月分

【12月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

11月に比べると、売上DIは横ばいで推移、業況DIはマイナスからプラスに転じた。一方、採算DIと仕入単価DIのマイナス幅は増加している。従業員DIのプラス幅は増加した。建設業や製造業においては景況感が出て順調、サービス業では労務費の増加などの声が聞かれており、仕入コストの増加や人手不足の進行が続き、全般的には、採算面で不安な見方をする傾向もでてきており、景況回復の動きは、依然弱い状況にある。

先行きについては、11月に比べ、売上DIと業況DIはプラスからマイナスに転じ、採算DIもマイナス幅が増加している。仕入単価DIのマイナス幅と従業員DIのプラス幅はやや減少した。売上、業況、採算ともに下降の見通しとなり、景況感、引き続き慎重な見方となっている。



	平成28年12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	平成29年12月
売上	4.3	▲ 7.5	▲ 12.6	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 9.6	8.9	▲ 6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4
採算	▲ 5.4	▲ 12.9	▲ 16.8	9.0	▲ 8.7	▲ 14.9	▲ 4.4	0.0	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9
業況	▲ 9.7	▲ 11.8	▲ 17.9	▲ 5.6	▲ 14.1	▲ 13.8	1.1	▲ 8.9	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2
仕入単価	▲ 21.5	▲ 23.7	▲ 29.5	▲ 27.0	▲ 31.5	▲ 39.4	▲ 34.4	▲ 20.0	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8
従業員	14.0	20.4	17.9	16.9	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

業況DIはマイナスからプラス1.2ポイントに転じ、売上DIは0.2ポイントとプラス幅が減少したが、ほぼ横ばい。採算DIは7.4ポイント、仕入単価DIは7.9ポイントそれぞれマイナス幅が増加した。従業員DIが6.7ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
11月	5.1	▲ 10.1	▲ 25.3	26.6	1.3
12月	▲ 11.1	▲ 27.2	▲ 22.2	23.5	▲ 11.1

先行きは、売上DIと業況DIは、それぞれプラスからマイナス11.1ポイントに転じた。採算DIは17.1ポイントマイナス幅が増加した。仕入単価DIは3.1ポイントマイナス幅が減少し、従業員DIは3.1ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	売上は前年並み。業界としても大きな動きはない。
	総合建設	業界の景況感が出てきているようだが、本来の活況までには至らない。前年より受注も多く、稼働現場も順調に進行してきている。
製造業	鉄工	首都圏の需要は旺盛で来年度の仕事の目途は立っている。大型案件については2019～20年の物件を選別している状況。
	化学製品	前年同月に比べ、基幹産業の動きと同様に、当社の業績も横ばいである。
卸売業	機械部品	仕入品の値上げがしばらく続く模様で、売価への転嫁が難しく利益を圧迫しそうである。
	製材	輸入材は、特にアメリカ、カナダ産木材は現地の建築事情が良好なため、日本向けが少ない。また、大規模な山火事の影響で出材ができないことも輸入材価格上昇の一因である。
小売業	生花	クリスマス・年末需要に期待するが現在では盛り上がり少ない。
サービス業	ビルメンテナンス	パート賃金総額が予想以上に増加して、採算を悪化させている。
	運輸	運賃値上げのムードが高まり、今が値上げのチャンスである。適正運賃をしっかりと收受し、労働環境改善の原資としたい。
	ホテル	クリスマスイベント等は好調。心配事は天候不順による宴会のキャンセルの発生である。